

令和 7 年度

学校推薦型選抜試験問題

保健福祉学部 小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題冊子（7 頁）には、解答用紙（3 枚）及び下書き用紙（2 枚）が挟み込んであります。試験開始の合図があったら、直ちに中を確認、印刷や枚数の不備などがあった場合、監督者に申し出なさい。
- 3 問題冊子の間に挟み込んである解答用紙を取り出して、すべての解答用紙の所定欄に受験番号を記入しなさい。
- 4 解答は、すべて解答用紙の所定欄に記入しなさい。
- 5 句読点は、1 字と数えなさい。
- 6 試験室で配付された問題冊子及び下書き用紙は、退出時に持ち帰りなさい。

このページは白紙です。

このページは白紙です。

課題文を読み、後の問いに答えなさい。

【課題文】

あなたは、「自立」って何だと思いますか？

大学生にこう質問すると、「自分で金を稼げるようになること」「他人に依存せずに一人で生きていけること」という答えがしばしば返ってきます。そこで言われているのは、経済的自立であり、身の回りのことを一人でできるのは、身体能力の自立でもあります。どちらも、数値化できて比較可能だ、という意味で、能力主義に親和的な自立概念です。

でも、それ以外にも、自立の考え方はあるはずです。例えば、常時他人による介助が必要な身体障害者の社会運動（自立生活運動）においては、以下の自立概念が有名です。

「他人の助けを借りて15分で衣服を着替え、仕事に出かけられる障害者は、自分で衣類を着るのに2時間かかるために家にいるほかない障害者よりも自立している」

これは「自己決定や自己選択の自立」とも言われています。どの服を着るかは自分で選んで決める。でも、服の着脱は身体障害ゆえに時間がかかるなら、それは他者に介助を頼んで、着替えを済ませて外に出かけたらよい。何でも自分でできなくてもよいし、選択や決定は自分がした上で、できない部分は助けてもらえばよい。そういう考え方です。

ただ、(1)この定義は赤ちゃんとか重い認知症の人、重症心身障害者など、決めたり選ぶことが苦手だったりできなかったりする人、あるいは社会的な「仕事」ができない状態にある人には当てはまりません。では、娘が赤ちゃんだったときは、全く自立していなかったのか。そう問われると、「尊厳の自立」があると私は考えています。

認知症で何を食べたか忘れてしまっても、どうしてよいのか判断しにくくなっても、子や孫にとっては大切なおばあちゃんであり、長い人生を生きてきた○○さん、という尊厳は、その人の中に保持されているはずです。あるいは娘は生まれ落ちた瞬間から、他者と違う彼女の独自性に^{あふ}溢れていました。つまり、人は

生まれてから死ぬまで、その人の存在そのものが際立っている、という意味で、「尊厳の自立」があるはずです。

この前提に立った上で、「自立とは依存先を増やすこと」というフレーズを考えてみたいと思います。これは、東京大学教員の小児科医で、脳性麻痺^{まひ}の当事者でもある熊谷晋一郎^{くまがやしんいちろう}さんの言葉です。熊谷さんは東大医学部に入って、医者で、東大教員で、という意味では、勉強やキャリア面ではパーフェクトに自立しています。その一方、介助が必要という意味で、身体能力は自立していない、とも言えます。でも、彼は介助者を使って自己決定や自己選択をしているし、脳性麻痺として生まれてきたことに関係なく、尊厳は自立しています。

そんな熊谷さんは、「依存先を増やすこと」こそ自立だと言います。子育てをしていると、これは本当に自分事として痛感します。子育てを夫婦だけではとてもできません。祖父母やママ友・パパ友、こども園や学校など、様々なネットワーク（依存先）を増やすことで、子育てがしやすくなっていきました。また、何か困ったことが起こったとき、私の場合であれば「車、Mac、合気道、キャンプ、ワイン、洋服……のことなら〇〇さんに相談すればよい」という依存先を増やしておく、自分で調べはじめて右往左往しなくても、適切な情報をサクッと教えてもらえます。それで私はものすごく助かっているし、私の生活は確実に豊かになっています。

何でも一人でできるようになれたらいいけど、私はそんなに要領もよくないし、子育てや仕事をしていたらそんな時間はありません。ならば、学生時代から頼れる友人・知人を増やしていった方が、結果的に生きていくのが楽になります。また、私にできることがあるなら、友人や知人から頼られたら、余裕がある範囲で応じています。それこそ、「お互いさま」だと思うのです。

「他人に依存せずに一人で生きていけること」というのは、自立のように見えて、社会的孤立に繋^{つな}がりかねないと思っています。他者に頼らず全部を一人で抱え込むことでもあるからです。

「一人で生きていく」のは、心身にエネルギーがみなぎっていて、一定程度の経済的基盤があれば、他者に遠慮せずに済むし、自分勝手にできる、という意味で、楽でもあります。そういう意味では、自己利益の最大化、にもつながるのか

もしれません。なるべく依存を減らしても生きていけるよう、頑張ってリスク管理をしておられる方も、いるかもしれません。

でも、新型コロナウイルスにかかる、地震や豪雨災害の被害を受ける、事故に遭うなどは、自己管理だけでは防ぎようのないことです。そういう時には、自分の身の安全を確保した上で、他の人のためにできる事を、できる範囲です。皆さんもそういう経験をお持ちだと思います。それは、社会的孤立とは反対の、(2)身近な周囲からの連帯だと思うのです。

これを「面倒なしがらみだ」と思う人もいるかもしれません。でも、あなたが赤ちゃんだった頃、あなたへのケアを「面倒なしがらみ」だと周囲の大人が拒否していたら、そもそもあなたはこの世に存在していません。つまり、あなたがここまで生き延びてきたのは、一人で暮らせなかった（経済的にも身体能力でも自立ができていない）あなたのことを、気かけ、手を差し伸べてくれた人がいたからです。あなたの尊厳を大切に、あなたが選んだり決めたりするニーズをあなたは支えてもらったからこそ、暮らせています。そういう意味で、生まれた瞬間から、あなたのニーズは、あなたと関係性のある大人が、義務として満たそうとしてきたからこそ、あなたは「いま・ここ」にいるのです。

……と偉そうに書いていますが、私自身を振り返ってみると、子どもが生まれる前までは、これらのことを全く意識していませんでした。自分が努力した結果得られた成果も、できなかったことも、自己責任だと思い込んでいました。睡眠時間を削って、必死になって働いていました。だからこそ、娘が生まれ、出張や講演などを断り、娘のケアにエネルギーを注いで仕事をしていないと、仕事の世界から置いてきぼりになる恐怖を抱えていました。

しかし、その時の私に大切な別の価値観を教えてくれたのは、他ならぬ赤ちゃんの娘でした。彼女のニーズを満たすためには、泣いているときに、お腹がすいているのか、眠たいのか、しんどいのか、退屈なのか……を見極める必要があります。それは、彼女との関係性を深めないと、できないことです。確かに、娘に関わるのは、親としての義務・責務かもしれません。でも、そうやって娘に関わり続ける中で、娘のニーズが満たされた時に見せてくれる笑顔は、文字通りの値千金です。この子のおかげで父親になれた、と関係性の中での自らの存在を確かめ直すこともできました。それは、娘の依存に基づく親密な関係だけれど、娘か

ら父として承認されたことが、私自身の生きがいにもなっている、という意味では、私も娘に依存する、相互依存的な関係でした。

私は娘がすすく育つようにケアをしてニーズを支える一方で、娘を通じて私はケアの面白さを教わり、娘を通じて父として生きる^{だいごみ}醍醐味を教わった。そういう意味で、互いが互いを必要とする関係性であり、この相互依存的な関係性こそが、ケアの醍醐味だと思うのです。

出典：竹端寛『ケアしケアされ、生きていく』ちくまプリマー新書、2023年（一部改変）

【問1】 下線部(1)のように、赤ちゃんや重い認知症の人、重症心身障害者などが当てはまらないのはなぜか、25字以内で述べなさい。

【問2】 下線部(2)はどのように行われると筆者は捉えているか、80字以内で述べなさい。

【問3】 医療・福祉における相互依存的な関係性について、課題文を参考に、あなたの考えを400字以内で述べなさい。

